

〈報道関係者のみなさま〉

郵政博物館、8月19日から昭和の郵政映画を公開 ～デジタル化公開第1弾は、映画「日本の郵便」～

郵政博物館（東京都墨田区）では、8月19日（土）から「郵便シネマ館」と題して、デジタル化が終了した映像資料を公開します。

上映作品は主に昭和期の郵政省時代のもので、第1弾は1969（昭和44）年製作の事業周知用映画「日本の郵便」（郵政省企画、東映製作）。その後隔月ごとに新作を公開予定です。

当館では、早くから映像を用いた施策を展開しており、その萌芽は1910（明治43）年にさかのぼります。当時の記録では、映像を用いて「郵便、電信、電話等の現業を撮影し、職員教育に供したほか、各地で巡回上映をして事業周知の普及に資した」とあり、製作以外の施策としては、大正期ごろから博物館内に映写室が設置され、事業周知映像を公開してきました。

現在、当館が収蔵する映像資料は約4千件にのぼり、事業周知用のほか教育用など多岐に渡りますが、いずれも各時代の郵政事業の周知に貢献した有益な媒体です。

本施策では8月19日（土）から翌3月24日（日）まで、常設展示室内のメッセージシアターで「郵便シネマ館」と題して、デジタル化が終了した映像資料を随時公開します。

○主な公開資料（予定）

8・9月「日本の郵便」（1969年、郵政省企画、東映株式会社製作、21分52秒）

10・11月「郵便のうつりかわり」（1960年、郵政省企画、東映株式会社製作、19分32秒） 他



〔参考画像〕事業周知用映画「日本の郵便」（1969年/郵政省企画/東映製作/映像抜粋）